



2019年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2018年10月31日

上場会社名 株式会社ダスキン 上場取引所 東
 コード番号 4665 URL <https://www.duskin.co.jp/corp/index.html>
 代表者 (役職名) 代表取締役 社長執行役員 (氏名) 山村 輝治
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 経営企画部長 (氏名) 大久保 裕行 TEL 06-6821-5071
 四半期報告書提出予定日 2018年11月9日 配当支払開始予定日 2018年12月4日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第2四半期の連結業績（2018年4月1日～2018年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第2四半期	78,351	△2.4	4,378	0.7	5,272	0.6	3,394	△4.9
2018年3月期第2四半期	80,266	△1.0	4,346	72.8	5,240	53.9	3,570	69.6

(注) 包括利益 2019年3月期第2四半期 7,397百万円 (22.4%) 2018年3月期第2四半期 6,043百万円 (551.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第2四半期	63.51	63.50
2018年3月期第2四半期	66.81	66.81

(注) 前連結会計年度末において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、2018年3月期第2四半期については、暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直しが反映された後の金額により開示しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第2四半期	194,014	154,059	79.3
2018年3月期	196,058	147,786	75.2

(参考) 自己資本 2019年3月期第2四半期 153,758百万円 2018年3月期 147,415百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	20.00	—	20.00	40.00
2019年3月期	—	30.00	—	—	—
2019年3月期（予想）	—	—	—	20.00	50.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無
 2019年3月期第2四半期末配当金の内訳 普通配当20円00銭 記念配当10円00銭

3. 2019年3月期の連結業績予想（2018年4月1日～2019年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	163,000	1.2	7,900	4.5	9,000	0.2	5,400	1.4	101.04

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注)詳細は、添付資料P.9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年3月期2Q	55,194,823株	2018年3月期	55,194,823株
② 期末自己株式数	2019年3月期2Q	1,749,778株	2018年3月期	1,750,262株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年3月期2Q	53,445,054株	2018年3月期2Q	53,445,236株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間（2018年4月1日～2018年9月30日、以下「当第2四半期」という。）の我が国経済は、引き続き好調な企業収益を背景に、雇用情勢、所得環境は改善傾向にあり総じて回復傾向で推移しました。個人消費も拡大傾向にはあるものの、激しさを増す米中貿易摩擦等、海外経済の不確実性増大や相次ぐ自然災害等による先行きの不透明感と共に、力強さには欠ける展開が続きました。

長期戦略「ONE DUSKIN」の第2フェーズ「中期経営方針2018」の初年度である当期、創業55周年を迎える当社は、目標達成に向けて各種取り組みをスタートさせております。訪販グループ（2018年4月1日よりクリーン・ケアグループから改称）では、お客様に直接お会いしてご要望をお伺いできるという訪問販売・サービス最大の強みを活かして、「くらしのリズムを整えよう♪」のコミュニケーションワードの下、生活調律業への進化に取り組むと共に、高齢化の進展や共働き世帯の増加等に伴い市場拡大が見込まれるケアサービス事業（役務提供サービス）、介護用品や福祉用品のレンタル事業（2018年4月1日よりレントオール事業から分離したヘルスレント事業）の outlet にも注力しており、その一環として、当社フランチャイズチェーン最大の加盟店である株式会社ナックと資本業務提携契約を締結しました。一方フードグループでは、主力のミスタードーナツにおいては、ブランドスローガン「いいことあるぞ Mister Donut」の下、商品戦略を軸に、新しいタイプの店舗 outlet、改装を促進する等のブランド再構築に取り組んでおります。

当第2四半期の業績は、訪販グループ、フードグループ共に減収となり、連結売上高は前年同期から19億15百万円（2.4%）減少し783億51百万円となりました。利益面につきましては、減収に伴う粗利の減少があったもののレンタル製品の投入減少等による売上原価の減少及び販売促進費、企業年金制度変更に伴う退職給付費用の減少等により、連結営業利益は前年同期に比べ31百万円（0.7%）増加し43億78百万円、連結経常利益は31百万円（0.6%）増加し52億72百万円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、税金費用の増加により1億76百万円（4.9%）減少し33億94百万円となりました。

(単位：百万円)

	前第2四半期 (2018年3月期第2四半期)	当第2四半期 (2019年3月期第2四半期)	増減	
				増減率 (%)
連結売上高	80,266	78,351	△1,915	△2.4
連結営業利益	4,346	4,378	31	0.7
連結経常利益	5,240	5,272	31	0.6
親会社株主に帰属する 四半期純利益	3,570	3,394	△176	△4.9

<セグメント毎の状況>

セグメント別売上高

(単位：百万円)

	前第2四半期 (2018年3月期第2四半期)	当第2四半期 (2019年3月期第2四半期)	増減	
				増減率 (%)
訪販グループ	56,278	55,481	△796	△1.4
フードグループ	18,340	17,003	△1,337	△7.3
その他	7,138	7,414	275	3.9
小計	81,758	79,899	△1,859	△2.3
セグメント間取引消去	△1,492	△1,547	△55	—
連結売上高	80,266	78,351	△1,915	△2.4

※各セグメントの売上高には、セグメント間の内部売上高を含んでおります。

セグメント別営業利益

(単位：百万円)

	前第2四半期 (2018年3月期第2四半期)	当第2四半期 (2019年3月期第2四半期)	増減	
				増減率 (%)
訪販グループ	7,439	7,203	△236	△3.2
フードグループ	211	4	△207	△97.8
その他	164	261	97	59.1
小計	7,815	7,469	△346	△4.4
セグメント間取引消去 及び全社費用	△3,468	△3,091	377	—
連結営業利益	4,346	4,378	31	0.7

※各セグメントの営業利益には、セグメント間の取引を含んでおります。

①訪販グループ

訪販グループは、ケアサービス事業やレントオール事業（日用品、イベント用品等のレンタル）、ヘルスレント事業は引き続き堅調に推移し増収となったものの、顧客接点の更なる拡大に取り組むダストコントロール商品売上高が、家庭向け、事業所向け共に前年同期を下回ったことにより、全体の売上高は7億96百万円（1.4%）減少し554億81百万円となりました。営業利益につきましては、レンタル製品の投入減少等による売上原価の減少や退職給付費用の減少等があったものの、減収に伴う粗利の減少に加え、セグメント間の人員異動や外注委託費の増加等による経費増加により、前年同期に比べ2億36百万円（3.2%）減少し72億3百万円となりました。

家庭向けダストコントロール商品は、前期に販売キャンペーンを実施した「ロボットクリーナーSiRo」、台所用スポンジ等の売上減少影響が大きく、全体では減収となりましたが、事業を横断した割引クーポンチラシの配布やモップ等のレンタル品無料体験等の創業55周年キャンペーン、サイバーモールへの出店等の接点作り強化により、「おそうじベーシック3」（フロアモップ「LaLa」、ハンディモップ「shushu」、「スタイルクリーナー」のセット商品）や家庭用玄関マット等の売上が増加しました。また、当期より販売を開始したイオン式芳香器「ふわりら」の売上も寄与しました。

事業所向けダストコントロール商品につきましては、施設の衛生管理や全国チェーンの大規模事業所の獲得等に注力したものの、汎用マットやモップ商品の減少等により全体では減収となりました。一方で、演出力や機能性が高い商品へのニーズは引き続き高く、屋内専用オーダーメイドマット「インサイド」、空間清浄機「クリア空感」等の売上は増加しました。また、当期発売した芳香剤「芳香ファン」の売上も寄与しました。

ケアサービス事業につきましては、エアコンクリーニングが好調な「サービスマスター（ハウスクリーニング等プロのお掃除サービス）」をはじめ、「メリーメイド（家事代行サービス）」「ターミニックス（害虫駆除・予防サービス）」「トータルグリーン（植栽の管理・維持サービス）」「ホームリペア（住まいのピンポイント補修サービス）」いずれもお客様売上が増加し、全体の売上高は前年同期を上回りました。また当期は、サービス提供体制の強化を目指して加盟店数の増加に注力しており、一定の成果を挙げつつあります。

訪販グループのその他の事業につきましては、ユニフォーム関連事業、化粧品関連事業、高齢者向け生活支援サービスのライフケア事業（2018年4月1日よりホームインステッド事業から改称）が減収となった一方で、ヘルスレント事業は引き続き好調を維持しました。レントオール事業についても、地震や台風等によるイベントキャンセルが続く中、前年同期の売上高を上回りました。

②フードグループ

フードグループは、自然災害により各事業で営業時間の短縮や休店を余儀なくされたこと及び不採算店舗のクローズを進めたことによりミスタードーナツの稼働店舗数が減少したこと等でお客様売上が減少し、ロイヤルティ収入、加盟店への原材料売上共に減少した結果、売上高は前年同期から13億37百万円（7.3%）減少し170億3百万円となりました。営業利益につきましては、原価率の改善があったものの、減収に伴う粗利の減少により、前年同期から2億7百万円（97.8%）減少し4百万円となりました。

フードグループの主力であるミスタードーナツは、前期に引き続き「misdo meets」「ミスドゴハン」の販売に注力しております。最高水準の素材や技術を持つ企業等との共同開発商品を展開する「misdo meets」では、第1四半期は当期も京都宇治茶専門店祇園辻利の宇治抹茶を使用した「抹茶スイーツプレミアム」を発売、第2四半期は、焼きたてチーズタルト専門店PABLOと共同開発した「チーズタルド」シリーズを発売し、当期も多くのお客様に好評いただきました。また朝食やブランチ、ランチタイム等、おやつ時間帯以外でも楽しんでいただけるブランドを目指す「ミスドゴハン」では、5月に飲茶、パスタ、パイやホットドッグ等のメニュー改定を行いました。その他の取り組みとして幅広い年代のお客様に来店いただく取り組みにも注力し、人気キャラクター「ドラゴンボール超（スーパー）」と「キラキラハッピー★ひらけ！ここたま」とコラボレーションしたキッズセットの販売や前期も好評を博したハロウィーン関連商品として「ミスドミイラdeハロウィーン」を発売しました。更には、KDDI株式会社等、他企業との協業キャンペーンも積極的に取り組んだ結果、稼働店1店当たりの売上は前年同期を上回りました。しかしながら、不採算店舗のクローズに伴う稼働店舗数の減少影響により、全店お客様売上は前年同期を下回りました。

その他のフード事業につきましては、とんかつレストラン「かつアンドかつ」は増収となりましたが、シフォンケーキ専門店「ザ・シフォン&スプーン」、大型ベーカリーショップ「ベーカリーファクトリー」、パイ専門店「パイフェイス」は減収となりました。また、前期末にカフェデュモンド事業から撤退した影響もあり、その他のフード事業全体の売上高は前年同期を下回りました。

③その他

その他につきましては、国内連結子会社は、リース及び保険代理業を手掛けるダスキン共益株式会社、病院施設のマネジメントサービスの株式会社ダスキンヘルスケアは共に増収となりました。また海外連結子会社も、中国（上海）でミスタードーナツを展開する美仕唐納滋（上海）食品有限公司が店舗数減少により減収となったものの、楽清香港有限公司（原材料及び資器材の調達）がペーパータオルの取扱量増加等により増収となったことに加えて、事業所向けダストコントロール商品が順調に推移した楽清（上海）清潔用具租賃有限公司も増収となったこと等により、全体では増収となりました。その結果、その他の売上高は前年同期から2億75百万円（3.9%）増加し74億14百万円となりました。営業利益につきましては、株式会社ダスキンヘルスケアが増益となったことや海外事業における営業損失が減少した結果、前年同期から97百万円（59.1%）増加し2億61百万円となりました。

海外お客様売上は、訪販事業につきましては、台湾、中国（上海）、韓国は前年同期を上回りました。ドーナツ事業につきましては、タイ、フィリピン、インドネシアは順調に推移し、2017年2月に子会社化したマレーシアを中心に展開しているBig Appleグループは前年同期並み、台湾、中国（上海）は減少しました。

なお、上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産残高は、1,940億14百万円となりました。前連結会計年度末（以下「前期末」という。）と比較して20億44百万円減少しております。その要因は、投資有価証券が26億51百万円増加したことに対し、有価証券が37億48百万円、繰延税金資産が21億13百万円減少したこと等であります。

負債残高は399億54百万円となり、前期末と比較して83億17百万円減少しております。その要因は、退職給付に係る負債が54億54百万円、未払金が14億56百万円減少したこと等であります。

純資産残高は1,540億59百万円となり、前期末と比較して62億73百万円増加しております。その要因は、退職給付に係る調整累計額が35億9百万円、利益剰余金が23億25百万円増加したこと等であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年3月期（2018年4月1日～2019年3月31日）通期の業績予想につきましては、2018年5月15日に公表した従来の予想を変更しておりません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,846	18,991
受取手形及び売掛金	9,950	10,071
リース債権及びリース投資資産	1,326	1,275
有価証券	24,461	20,713
商品及び製品	7,738	7,995
仕掛品	142	186
原材料及び貯蔵品	1,598	1,542
その他	3,585	3,609
貸倒引当金	△37	△39
流動資産合計	67,611	64,347
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	43,486	43,894
減価償却累計額	△26,490	△26,946
建物及び構築物（純額）	16,996	16,947
機械装置及び運搬具	24,975	25,352
減価償却累計額	△18,484	△18,531
機械装置及び運搬具（純額）	6,491	6,820
土地	22,750	22,702
建設仮勘定	178	206
その他	12,405	12,535
減価償却累計額	△9,478	△9,757
その他（純額）	2,927	2,778
有形固定資産合計	49,344	49,455
無形固定資産		
のれん	549	503
その他	7,925	8,565
無形固定資産合計	8,474	9,069
投資その他の資産		
投資有価証券	60,523	63,174
長期貸付金	3	5
繰延税金資産	3,073	959
差入保証金	5,751	5,697
その他	1,310	1,334
貸倒引当金	△34	△28
投資その他の資産合計	70,627	71,142
固定資産合計	128,446	129,667
資産合計	196,058	194,014

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,834	6,100
短期借入金	173	—
未払法人税等	1,403	1,371
賞与引当金	3,397	3,152
資産除去債務	18	6
未払金	8,112	6,655
レンタル品預り保証金	9,314	9,332
その他	4,731	4,462
流動負債合計	33,985	31,082
固定負債		
退職給付に係る負債	12,882	7,428
資産除去債務	578	606
長期預り保証金	788	793
長期未払金	18	27
その他	18	16
固定負債合計	14,286	8,872
負債合計	48,271	39,954
純資産の部		
株主資本		
資本金	11,352	11,352
資本剰余金	11,087	11,092
利益剰余金	120,519	122,844
自己株式	△3,571	△3,570
株主資本合計	139,388	141,719
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,878	10,455
繰延ヘッジ損益	1	11
為替換算調整勘定	△54	△138
退職給付に係る調整累計額	△1,798	1,711
その他の包括利益累計額合計	8,026	12,038
新株予約権	9	12
非支配株主持分	361	288
純資産合計	147,786	154,059
負債純資産合計	196,058	194,014

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
売上高	80,266	78,351
売上原価	44,006	42,272
売上総利益	36,259	36,079
販売費及び一般管理費	31,913	31,700
営業利益	4,346	4,378
営業外収益		
受取利息	181	152
受取配当金	163	174
設備賃貸料	75	80
受取手数料	105	106
持分法による投資利益	149	112
雑収入	327	435
営業外収益合計	1,003	1,060
営業外費用		
支払利息	2	5
設備賃貸費用	26	37
支払補償費	24	21
雑損失	54	101
営業外費用合計	108	166
経常利益	5,240	5,272
特別利益		
固定資産売却益	2	2
その他	0	0
特別利益合計	3	2
特別損失		
固定資産売却損	89	—
固定資産廃棄損	73	101
減損損失	24	62
災害による損失	0	15
その他	0	0
特別損失合計	188	180
税金等調整前四半期純利益	5,056	5,094
法人税等	1,503	1,708
四半期純利益	3,553	3,385
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△17	△8
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,570	3,394

(四半期連結包括利益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
四半期純利益	3,553	3,385
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,272	577
繰延ヘッジ損益	6	9
為替換算調整勘定	△24	△23
退職給付に係る調整額	211	3,502
持分法適用会社に対する持分相当額	23	△54
その他の包括利益合計	2,490	4,011
四半期包括利益	6,043	7,397
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,061	7,406
非支配株主に係る四半期包括利益	△17	△9

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

連結子会社の税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間（自 2017年4月1日 至 2017年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	訪販 グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	55,899	18,335	6,032	80,266	—	80,266
セグメント間の内部売上高 又は振替高	379	5	1,106	1,492	△1,492	—
計	56,278	18,340	7,138	81,758	△1,492	80,266
セグメント利益又は損失(△)	7,439	211	164	7,815	△3,468	4,346

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△3,468百万円には、セグメント間取引消去32百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△3,501百万円が含まれております。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。
4. 上記のセグメント情報は、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直しが反映された後の金額により開示しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

なお、のれんの当第2四半期連結累計期間の償却額及び当第2四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	訪販 グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第2四半期連結累計期間償却額	87	—	3	—	90
当第2四半期連結会計期間末残高(注)	506	—	65	—	571

- (注) 1. 当第2四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高506百万円（訪販グループ）、2017年2月に取得したBig Apple Worldwide Holdings Sdn. Bhd. ののれん残高65百万円（その他）であります。
2. 上記の報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報は、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定による取得原価の当初配分額の重要な見直しが反映された後の金額により開示しております。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間（自 2018年4月1日 至 2018年9月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	訪販 グループ	フード グループ	その他 (注1)	計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
売上高						
外部顧客への売上高	55,120	16,998	6,232	78,351	—	78,351
セグメント間の内部売上高 又は振替高	361	4	1,181	1,547	△1,547	—
計	55,481	17,003	7,414	79,899	△1,547	78,351
セグメント利益又は損失(△)	7,203	4	261	7,469	△3,091	4,378

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、事務用機器及び車両のリース、保険代理業、病院のマネジメントサービス及び海外事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△3,091百万円には、セグメント間取引消去42百万円、各報告セグメントに配賦していない全社費用△3,133百万円が含まれております。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

なお、のれんの当第2四半期連結累計期間の償却額及び当第2四半期連結会計期間末の残高は以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	訪販 グループ	フード グループ	その他	全社・消去	合計
当第2四半期連結累計期間償却額	81	2	6	—	90
当第2四半期連結会計期間末残高(注)	384	28	90	—	503

(注) 当第2四半期連結会計期間末残高の主な内容は、当社及び連結子会社が複数の加盟店から事業譲受した際に発生したのれん残高384百万円（訪販グループ）、28百万円（フードグループ）、2017年2月に取得したBig Apple Worldwide Holdings Sdn. Bhd. ののれん残高90百万円（その他）であります。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

(セグメント名称の変更)

第1四半期連結会計期間より、従来「クリーン・ケアグループ」としていた報告セグメントの名称を、「訪販グループ」に変更しております。当該変更は名称変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。なお、前第2四半期連結累計期間の報告セグメントについても、変更後の名称で表示しております。